

仏様の掌に抱かれて・・・

真成寺のお檀家様方並びに、信徒の皆様方、新年明けましておめでとうございます。

人は大抵、自分が幸福な時は、他の世界に目が向かないものです。一頃、マイホーム主義という言葉がはやって、自分の家庭だけが幸福ならそれでいい、という風潮が世間一般の考えのようにみえた事もあります。しかし、自分の家庭や学校だけが幸せで無事なら、近所に何がおころうが知ったことじゃない、という精神は、自分の国だけが知ったことじゃない、という精神につながっていきません。それではあまりにも心が貧し過ぎる。自分が幸福な程、他人の上に降り注ぐ幸福も願ってあげたいものです。

仏教では、「一切衆生悉有仏性」

という言葉があります。これはこの世のあらゆるものには、仏性（仏様の心）が与えられているということです。小さな赤ん坊の目のぞきこむと、「アア何と清らかな、きれいな

目をしているのだろう」と、心をうたれます。それは、赤ん坊が生まれた時、仏様から頂いてきた仏性が、1点の曇りも無く、そのままに輝いているからなのです。しかし成長するに連れて、わがままや、甘えや、怠惰や、貪欲によつて、その清らかな目がだんだん曇っていきます。

そうならない為に私達は生涯かけて、少しでも自分の心の曇りを取り除き、本来仏様から頂いている仏性を、生まれたばかりの清らかな姿に磨きあげていかなければなりません。心に曇りがなければ、仏様から頂いた智慧が輝き、色々な迷いや困難にぶつかっても、それに対応していくことが出来るのです。赤ちゃんの清らかな心を曇らせないように磨くことが、お母さんの責任であり、学校教育の根本なのではないでしょうか。

仏教の最終目標は、何モノにも捕らわれない自由な心になる事、つまり「法華経を通して、生きながらにして仏様になる、成仏できる」ということなのであります。その為に、私達は種々の物事や困難にぶつかっても、正しく判断できる『智慧』を持たなければならぬのであります。

『智慧』の「智」は、物事を常識的に

判断して、事の組立てや性質を理解すること、で、「慧」は物事の深い根本について知り、考える力の事を言います。この2つが具われば、生きていく上で、何がおこっても、正しい判断が出来る、物事の本質が見ぬけて、危急も切りぬけていきます。この智慧の根幹に備えなければいけない仏様の教えは、紛れもなく『法華経』に他なりません。仏様の教え、法華経は私達には到底図り知ることが出来ないくらいに深くして

広く、そして不思議な力を備えています。人間の才智で考えれば、常に自分、自分と、自分の欲の事しか考えつきませんが、仏様はそんな私達の為に、形を変えながら、私達1人1人、その人に本当に相応しい事柄や気づきを、その時々に応じて、私達にお与えになられておられます。

ここで私が好きな、仏様の詩を1つご紹介致します。

●大事をなそうとして、力を与えてほしいと仏様に求めたのに、慎み深く従順であるようにと、弱さを授かった。

●より偉大なことができるようにと、健康を求めたのに、より良きことができるようにと、病弱を与えられた。

●幸せになろうとして、富を求めたのに、賢明であるようにと、貧困を授かった。

●世の人々の賞賛を得ようとして、権力を求めたのに、仏様の前にひざまづくようにと弱さを授かった。

●求めたものは、1つとして与えられなかったが、私が本当に願う、その願いは全て聞きとどけられた。

●私は仏様の意に添わぬ者であるにもかかわらず、心の中の言い表せない祈りは、全て叶えられた。私はあらゆる人の中で、もっとも豊かに仏様から祝福された。

南無妙法蓮華経。

仏様は私達に、「自分1人で生きていく」という勘違いを捨て、私達は全ての出来事、周りの人々に「生かされている」という事を知って、感謝しながら事に当たってほしいと願われているのであります。本当に自分の願いを叶えたければ、自分のことではなくて、まずは周りの人に自分ができる自分しかできない行いを、全力で実践した時にはじめて、与えられる様な気がします。

本年はどんな1年になるのか、どんな年にするのか、全て仏様の掌に身を委ねて、あの生まれたばかりの赤ちゃんの、1点の曇りもない瞳に近づくために、少しでも心を磨いていけますことをお祈り致します。私の念頭のご挨拶に代えさせていただきます。

合掌

副住職

谷川 寛敬